

平成27年7月26日  
今週のベストショット



奈多グラウンド 雁ノ巣ライナーズ 対 奈多フェニックス戦

奈多フェニックス扇の要、実延新伍選手の体を張った活躍で逆転勝利をモノにした。

写真：ソルトベ이스ターズ田中裕次郎

奈多グラウンド 奈多フェニックス粘って鮮やかな逆転勝ち

雁ノ巣ライナーズ（5勝2敗0分）200100 3 鳥越●-岡村、中道

奈多フェニックス（3勝1敗1分）10030X 4 松本○-実延（新）

HR：沖（奈多フ） 2BH：安藤（奈多フ）田崎（雁ノ巣）

真夏の青空が広がった奈多グラウンド。初回ライナーズは先頭明瀬旭選手がデッドボールで出塁。一死後、三番中口選手、四番久保田選手も四球で出塁し満塁に。立ち上がり制球に苦しむフェニックス松本投手は続く五番田崎選手にも四球を与えてしまい先制点を献上。六番鳥越選手の犠牲フライでもう1点与えノーヒットでライナーズが2点先制。その裏フェニックスは一死から二番福島選手が四球で出塁、三番安藤選手の選手の二塁打で1死二、三塁とし四番実延（新）選手の犠牲フライで1点を返す。その後二、三回とライナーズは得点圏にランナーを置くも決定打がでなかったが、ようやく四回表、ヒットで出た久保田選手を一塁に置き、国崎選手がタイムリー二塁打を放ち待望の追加点をあげ3-1とする。二、三回とライナーズ鳥越投手に三者凡退に抑えられていたフェニックスは四回裏、三番安藤選手が四球で出塁、続く実延（新）選手は三塁ゴロで一死一塁となるも実延（新）選手は果敢に盗塁し成功。その後ワイルドピッチで三塁に進むと五番今林選手の犠牲フライでホームインし1点を返す。さらに相手エラーで出塁した高原選手を一塁に置き続く沖選手はレフトフェンス越えの逆転ホームラン。ライナーズは六回表、先頭の明瀬航選手のヒットを足がかりに二死満塁まで攻めるもやはりあと1本が出ずそのままゲームセット。攻め切れず残塁の多かったライナーズは悔いの残る敗北となった。また再三のピンチを抑えたフェニックス松本投手の粘りのピッチングが光った。（記事・写真：ソルトベ이스ターズ田中裕次郎）



試合前の両軍挨拶。熱い戦いの予感。



フェニックス先発の松本投手。



一回表、押し出しで先制のホームを踏む明瀬航選手。



送球を交してホームを踏むライナース中口選手。



一回裏、二塁打を放ったフェニックス安藤選手。



犠牲フライでホームインするフェニックス福島選手。



ショートゴロを華麗に捌くライナース明瀬旭遊撃手。



二回表、素早いバンド処理を見せるフェニックス今林英二三塁手。



執拗なバンド攻めにも落ち着いて処理する太田一塁手。



四回表、適時二塁打を放ったライナーズ国崎選手。



四回裏、果敢に盗塁するフェニックス実延新伍選手。



四回裏、逆転の左柵越えHRを放ったフェニックス沖選手。



殊勲の逆転ホームランを放ったフェニックス沖選手。



ファールフライを懸命にキャッチするフェニックス実延新伍捕手。

### 雁レク軟式3 2勝3敗同士の対決は三友クラブが勝利！

三苦フレンズ (2勝4敗) 10000 1 生野(拓) ●一佐藤

三友クラブ (3勝3敗) 22202× 8 足達○、久岡一柿崎

3BH: 柿崎(三友ク)

2勝3敗同士の対戦となったこの試合。一回表三苦フレンズは、二死から三番佐藤選手が死球、四番福山選手が左前安打で二死一三塁とし、五番生野(猛・父)選手がセカンドの頭を超えるしぶとい適時打で1点先制した。その裏三友クラブは、三苦フレンズの生野(拓・息子)投手の立ち上りの制球難により、二・三番を連続四球、五番大坪選手の内野安打、七番福井選手の中前適時打などで、すぐに2点を返し逆転した。二回裏三友クラブは、

この日も制球が定まらない生野（拓）投手を攻めて、八番駄原選手の技ありの内野安打、九番坂本選手が送りバント、その後一・二番をまたもや連続四球で二死満塁とし、四番松尾選手の2点適時打でさらに得点を追加した。反撃したいフレンズであったが、三友クラブの足達投手が立ち直り、二・三回と三者凡退で退ける好投。さらに三回裏三友クラブは、七番福井選手、八番駄原選手の連続安打でチャンスを作り、一番柿崎選手の中前適時打、二番山本選手の左犠飛で2点追加。四回表フレンズは、四番福山選手、六番寺山選手がそれぞれ中前安打を放ったものの、攻め手を欠きこの回無失点。五回裏にも三友クラブは、一番柿崎選手の三塁打などでダメ押しの2点を追加し、試合終了。結果は大量得点を上げた三友クラブが8対1で勝利した。この試合を左右したのは、フレンズ生野（拓）投手の制球難による四死球の多さが目立ったものの、それをフォローする周りの声掛けなどが少なかったと思われる。その反面、三友クラブは試合中の声も出ており、自分たちでいつものリズムを作った事で、試合の流れを引き寄せたものとなった。（記事・写真：三苦ホーネッツ 永島貴文）



粘り強いピッチングを見せた三友クラブ足達投手。



一回表、先制打の三苦フレンズ生野（猛・父）選手。



三回裏、体勢を崩しながら中前適時打の三友クラブ柿崎選手。



三回裏、左翼犠飛を放つ三友クラブ二番山本選手。



四回表、中前安打のフレンズ福山選手。



五回裏、三友クラブ代打の福山選手。



好守備を魅せたフレンズ山口遊撃手。



五回裏、三塁打の三友クラブ柿崎選手。



体を張った守備をみせたフレンズ生野（猛・父）選手。

### 青松園B 両投手好投みせるもエラーで明暗

ブルーマーリンズ（8敗） 0 1 0 0 0 0 1 林●—横山（健）

三苦三球会 （6勝2敗） 1 1 2 0 0 1 5 吉留○—藤澤

HR：横山（祥） 2BH：堺（和） 渡邊・藤澤（三球会）

初回、三球会はエラーのランナーを得点圏に進め、大澤選手のタイムリーヒットにて幸先よく先制。ブルーマーリンズも直後に横山（祥）選手の本塁打にて同点に追い付く。その裏の三球会は、堺（和）選手の二塁打で初回に続き得点圏にランナーを置くと、続く上山選手のタイムリーヒットにてあっさりと逆転に成功。更に三回にもヒットと四球を絡め満塁の好機を作り、前の打席に二塁打を放った堺（和）選手を迎え得点を離すチャンス。しかしここは林投手踏ん張り内野ゴロを打たせたとした矢先、内野手の痛恨のトンネルで手痛い2点が入る。その後、ブルーマーリンズも何とか得点圏にランナーを進めるも要所を吉留投手に抑えられ手痛い敗戦となった。（記事・写真：奈多クラブ 吉田貴史）



試合開始。



要所を締め完投した三球会吉留投手。



好投するも敗戦投手となったブルーマーリンズ林投手。



先制する三球会一番藤澤選手。



二回表、左中間HRを放つブルーマーリンズ横山（祥）選手。



ホームインする横山（祥）選手。



二回裏、逆転打を放った三球会上山選手。



末松三塁手を襲う鋭い当たりでファインプレーをみせた。

## 青松園A 藤田選手圧巻のピッチング！上位チームに食らいつく！

塩浜ジャガーズ（2勝6敗）000001 1 内田●、立石一橋村

新町ウインズ（6勝2敗）00221× 5 藤田○ー今林

HR：立石（塩浜ジ）永淵（新町ウ）2BH：野中、泉（晴）（新町ウ）

好投手藤田選手率いる新町ウインズ対打線好調の塩浜ジャガーズとの試合でした。二回まで両チーム共ランナーを出すものの好守やチャンスでの凡退が続き、試合が動いたのは三回裏、ウインズの攻撃。これまでジャガーズもチャンスを作りながらも点が取れず嫌なムードで迎えたこの回、先頭の安藤(一)選手がサードへのヒットで出塁。続く今林選手が死球、四番藤田選手がエラーで出塁し無死満塁。このチャンスに五番桐島選手はショートゴロに倒れるも続く六番野中選手がこの日二本目となるヒットでランナー二人が返り2点を先制。この後の打者は倒れるもウインズが貴重な先制点をもぎ取った。四回表、何とかしたいジャガーズだが三人で抑えられ、迎えた四回裏、ウインズ先頭の泉(晴)選手が二塁打で出塁し確実な攻撃で2点を追加。五回裏には永淵選手のライトへのソロHRでもう1点追加。何とか意地を見せたいジャガーズ打線は、先頭の立石選手がセンターオーバーの特大HR。続く佐藤選手もセンター前ヒットで出塁するも、藤田投手の力のピッチングで封じ込まれてしまった。ランナーを出しながらも両チームなかなか点が取れなかったが、先制点を取ったウインズに軍配が上がった形となった。(記事・写真：新町パイレーツ 三重野健)





### 第13週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第13週、7月26日は4試合が行われました。

奈多グラウンドの雁ノ巣ライナーズ対奈多フェニックス戦は、ノーヒットで2点を先制したライナーズを追う展開のフェニックスは、3-1で迎えた四回裏に1点を返して七番沖選手の柵越え2ランで逆転すると、五回表の二死満塁のピンチを凌ぎ3-4の逆転勝利。ライナーズが四回あった満塁のチャンスを初回の押し出しでしか得点できなかった一方、3安打ながら効果的な得点を挙げたフェニックスの粘り勝ち。

雁レク軟式3の三苦フレンズ対三友クラブ戦は、初回二死からDBと二安打で1点を先制したフレンズだったが、初回からコンスタントに2点を取っていく三友クラブが、二回以降安定した足立投手の好投もありフレンズ打線を4安打に抑え、1-8で勝利。フレンズは、投げては生野(拓)投手の制球難、打っては九番~三番まで連なる20代が効果的に機能せず、二死や走者なしの状態でクリーンナップに打席を回したのが敗因か？

青松園Bのブルーマーリンズ対三苦三球会戦は、1点を先制した三球会が二回表にブルーマーリンズ横山(祥)選手のHRで同点に追いつかれるも、二回裏以降毎回ヒットでランナーを出し、1-5で勝利。Bマーリンズは六~九番に20代を揃えていたが、こちらもあまり機能していなかった。若い脚力などを活かすなど出塁への意欲をもっと感じさせられれば、打線として機能するのではないだろうか？三球会はどの打順からも出塁、進塁、得点ができるチームカラー通りの試合だった。



青松園Aの塩浜ジャガーズ対新町ウインズ戦は、三回裏に先制、四回に中押し、五回にダメ押しと三連続イニングで5点を挙げたウインズが、藤田投手の好投もあり、ジャガーズ打線を立石選手のHRの1点に抑え、1-5で勝利。ジャガーズは一〜三回まで先頭ランナーを出し、送りバントで進めるも得点に結び付けられなかったリズムの悪さが、三回裏以降の失点を呼び込むきっかけとなったのか？そこで1点でも先に得点できていれば、変わった展開になっていたかもしれない。

夏の甲子園大会福岡県予選決勝は、二連覇を懸ける九州国際大附属高対、来年から学校名が東海大付属福岡高校に変わる東海大五高の私立同士の争いとなりました。久しぶりに県立高校の出場となるか楽しみではありましたが、結局私立の壁に阻まれました。

結果はご存じの通り、九国大附属高が二連覇を果たし、8月6日から始まる夏の甲子園大会に出場します。

先週の編集後記を書いている最中に、九国大附属対朝倉高校選の試合が行われていて、3-0で朝倉高校がリードしての九回表、伝令で九国大附属の背番号10の選手がマウンドへ行ったところ、捕手が投手交代と勘違いして球審に告げてしまい、場内アナウンスが流れ結局投手交代、急遽背番号10の選手が登板することに。

思いがけないハプニングで、編集後記を書いている私も九国大附属の負けを確信して、その旨書き込んでいました。

するといい当たりを打たれながらも抑え、九回裏九国大附属が最後の攻撃を迎えました。

そして、ショートエラーで先頭打者が出塁すると死球に続いて、レフトのグラブをかすめるヒットで1点。

ここでニュースが流れ、試合映像が中断。

試合映像が再開すると1点差になっていました。

その後タイムリーと押し出しで九国大附属のサヨナラ勝ち。

このハプニングで流れが変わったのは朝倉高校の選手の方でした。

もし、何のハプニングもなければ朝倉高校が勝っていたのでは？と思ったのは私だけではないはずです。

慌てて編集後記を書き直し、UPしたのですが、本当に試合終了のコールがなされるまで何が起こるか分かりません。

あだち充の作品で「H2」という野球漫画がありました。

この中で主人公の国見比呂が第1巻で言っていた台詞

比呂「決まらないんですよ野球ってヤツは。どんな点差でも最後のスリーアウトをとらない限りはね。」

本当にそうですね。

過去のWSLの試合でも何試合もありました。

私の中では平成23年12月11日の三苦三球会对奈多サンデーズのプレーオフ  
<http://www.geocities.jp/wajirosoftball/H23.12.11.pdf>  
が記憶に残っています。

たまにはHPの過去の試合から覗いてみてください。